

# 第4次5ヶ年計画（2020～2024年度 中期計画）

## <5ヶ年計画の経緯、概要>

- 第1次：2005～2009 } 組織改編のための発展的改組・整備期  
 第2次：2010～2014 } ①聖マリア学院大学開設／短期大学からの改組(2006～) ②大学院開設(2010～) ③専攻科開設(2013～)
- 第3次：2015～2019 - 一連の改組期を経て質的点検・充実期  
 ①建学の精神に基づく教育研究を発展的に継続するための取組  
 ②認証評価適格認定／有効期間：2018.4～2025.3



- <次期5ヶ年計画骨子> 【A】50周年記念／2023年度(since 1973) ⇒ 周年事業の企画立案・広報展開  
 【B】中期(5ヶ年)の事業構想・行動計画

### 【B】- i > テーマ 「50年目の原点回帰 ～理念継承のための変革～」

建学の精神：「カトリックの愛の精神」

主イエスキリストの限りなき愛のもとに、常に弱い人々のもとに行き、常に弱い人々と共に歩むことです

教育理念：聖マリア学院大学は「カトリックの精神」に基づく教育・研究を行って、豊かな人間性と深い教養を具え高度の看護知識と技術に基づく科学的な看護実践能力を養い、広く人間社会の健康に寄与できる篤実有能な人材を育成することを目的としています。

教育の特色：○「人間の尊厳・生命を尊重する倫理、生命倫理教育」による倫理的判断能力／専門職としてのケアリング／ヒューマンケアの実践能力の育成

○シスター・カリスト・ロイ博士提唱の「ロイ適応看護モデル」に基づく科学的思考と問題解決能力の育成

○聖マリア病院とともに、長年の国際保健医療協力を連携して実践している「国際看護学」の教育

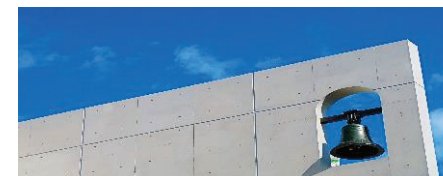
### 【B】- ii > コンセプト

- ① ハードからソフト重視への事業展開の方針化
- ② 発展的拡充施策から“安定的持続施策”へ(合理化、適正化への取組み)
- ③ 理念や特性、規模に見合った経営戦略の立案、数値目標化
  - 真に必要な事業の取捨選択、組織の再構築(長期的視座からの Compact Design)
  - 強み・特色の強化(ブランディング)、弱みの克服、又は非効率・非生産的事業の見直し、スリム化

### 【B】- iii > キーワード

“学生のため、社会のため、未来のため” ⇒ 5つのカテゴリー化(第3次5ヶ年計画を継承しつつ)

- 1\_ St. Mary's Philosophy 理念の継承、実践の為の取組み
- 2\_ Enrollment Management 学生の成長を促す為の取組み
- 3\_ Glocal (Global and Local) 世界に開かれ地域に根差す為の取組み
- 4\_ Universal 標準性と多様性の推進の為の取組み (ex. 分野別評価、合理的配慮、奨学制度 etc.)
- 5\_ Innovation 教育力、経営力強化の為の取組み (ex. トップダウン型→組織経営型 etc.)



### 【B】- iv > 重点項目

中期的行動指針の柱となる5つの重点項目

「教育の質向上」「学生支援策の充実」「入試改革と戦略的學生募集・広報活動の推進」「社会連携(地域貢献・国際交流)」「経営基盤・組織の強化」

## <10年後の在るべき姿／Vision2030>

“カトリック大学”として… 社会に開かれているか\_\_信頼性、公開性、貢献度  
 未来に開かれているか\_\_計画性、継続性、経営力  
 学生・教職員は拓かれているか\_\_教育の質、development

第4次5ヶ年計画を踏まえ、10年後の大学像を指標化し、第5次5ヶ年計画(2025～)策定時の基準項目とする

教育の質向上

中期目標・計画(令和2年度～令和6年度)		中期行動計画(令和2年度～令和6年度)	評価指標(数値目標)	責任委員会等
1	教学マネジメント体制及び組織的教育展開の強化による学修者本位の教育への転換	i 教育目標、三つのポリシー並びにアセスメント・ポリシーの戦略的見直しと質向上のためのPDCAサイクルの機能化を図る。	学生満足度調査 授業評価アンケート カリキュラム評価 卒業生アンケート 卒業時到達度アンケート	教学マネジメント会議 教育の質向上委員会
		ii ディプロマ・ポリシーを基点とした科目編成・教育の実施を図る。		教学マネジメント会議 教育の質向上委員会
		iii 学修成果の把握・可視化と結果を踏まえた改善への取組を図り、その前提となる成績評価の信頼性確保に向けた学内基準・共通認識を図る。		教学マネジメント会議 教育の質向上委員会
		iv 教学マネジメントを支える基盤の強化としてのFD・SDの高度化と教学IR体制の確立		教学マネジメント会議 教育の質向上委員会 IR・SD推進室
		v 教育成果や教学に係る取組の積極的公開を図る。		教育の質向上委員会 学生募集・広報戦略委員会
2	本学の特徴と社会動向を踏まえた教育課程の再編成	i カトリックの愛の精神を基盤とした看護専門職を育成する教育課程を編成する。	学生満足度調査 授業評価アンケート カリキュラム評価 卒業生アンケート 卒業時到達度アンケート	教学マネジメント会議 教育の質向上委員会
		ii Society5.0に向けた人材育成を可能とする教育課程を編成する。		
		iii 保健医療福祉の動向を反映する保健師助産師看護師養成所指定規則改正の意図を踏まえた教育課程を編成する。		
		iv 保健師・助産師教育の教育課程の在り方(学部選択、別科、大学院)及び大学院におけるクリティカルケア看護における専門看護師課程の検討	教学マネジメント会議	
3	学生個々人の可能性を最大限に伸長する教育への転換と予測不可能な時代で新たな価値を創出できる人材の育成	i 幅広い総合的知識を応用し、現代社会の問題解決に必要な力、課題発見能力等を身につけるリベラルアーツ教育の充実を図り、更に、看護大学として、また本学の強みを活かしたSTEAM教育の在り方を検討する。		教学マネジメント会議 教育の質向上委員会
		ii 情報通信技術(ICT)を活用した新たな手法の導入により、学生の主体的学びへの転換を図り、個々の能力や適性に応じた教育の提供を図る。		
4	設立理念を共にする聖マリア病院を中心とした実習施設との協働による臨床教育の充実	i 教育モデル病棟構築の継続と実習指導者(学内教員を含む)の質向上を図る。		教育の質向上委員会 連絡協議会
5	教育目標・将来構想実現に資する教員組織の再構築と適切な人事制度・支援体制による教育研究活動の活性化	i 大学の将来構想を踏まえた教員組織の構築を検討する。		教学マネジメント会議
		ii 教育面を中心とした教員活動状況評価を通じ、教員自らが教育研究活動の状況を点検・評価し、質向上を目指すことにより、大学全体の能力向上、活性化を図る。		
		iii 研究成果の更なる促進に向け、大学・領域内における研究支援を強化	科研費獲得件数(新規採択:年5件以上)	教育の質向上委員会 教授会
6	教育の質に関する内部質保証の機能性・有効性の向上 (学外者からの意見の積極的活用)	i 点検評価の実施においては、法的に義務化された機関別認証評価(日本高等教育評価機構)の他、自治体を始めとした地域社会・産業界等の意見、更に任意受審である分野別認証評価(日本看護学教育評価機構)を受審し、積極的に客観的意見を取り入れる。		自己点検評価・総括委員会 外部評価委員会 教育の質向上委員会 その他、関連委員会

学生支援策の充実

中期目標・計画(令和2年度～令和6年度)		中期行動計画(令和2年度～令和6年度)	評価指標(数値目標)	責任委員会
1	ひとりひとりの学生の個性と多様性に寄り添う支援	i チューター教員、科目担当教員、学内学生支援部署、学生支援センター(生活支援部門)が適切に連携し、一人ひとりの学生の個性、背景、心身の状態に応じた支援を行う。	退学率:全体の2%以下 (不本意中途退学者0%)	学生委員会 学生支援センター (生活支援部門) 健康管理センター
		ii 休学者、留年者、退学予備軍に対し、大学を継続するための学修及び学生生活支援		
		iii 学生にとって身近で分かりやすい相談支援体制の構築		
2	学生の理解度に応じた学修支援と主体的学修姿勢の醸成	i リメディアル教育、初年次教育により大学教育への円滑な接続を図り、成績格差の是正を図る。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・1年前期定期学修会への対象者参加率30%以上</li> <li>・学年横断型グループワーク(ともべん)への参加率30%以上</li> <li>・学修行動調査による学修時間0の学生を0へ(第1回、第2回比較)</li> <li>・学修行動調査の学修時間上昇率30%以上(第1回、第2回比較)</li> <li>・1年生成績下位者の得点率上昇率5%以上(入学時テスト、実力テスト比較)</li> </ul>	学生支援センター (学修支援部門) チューター
		ii 学修支援ピア・サポーターを中心とした学年横断型グループワーク学修会を確立し、学生の主体的・能動的学修スタイルの形成、学修コミュニティの形成を醸成し、受講学生の基礎学力の向上を図るとともに、指導学生の理解度向上並びに指導を通じた成長を促す。		
		iii 学生行動調査を分析し、結果を踏まえた支援体制を検討・実施する。		
		iv 国家試験合格を見据え、特に学修理解が困難な学生や留年生に対しては低学年からの学修支援体制を充実させ、また4年進級後の支援体制づくりを行う。	国家試験合格率(100%達成と継続)	
3	学生の適正や能力、可能性を活かし、よりよいキャリア選択を可能とする支援の充実	i 低学年よりキャリアガイダンス実施し、キャリア形成の動機付けを行う。	就職・進学希望者の就職・進学率100% 福岡県内病院への就職率65%、聖マリア病院への就職率30%	学生委員会 学生支援センター (キャリア支援部門)
		ii 個人の能力や大学での学修を実践に活かすことが出来るよう、一人一人に応じた適切なキャリア選択のための支援を行う。		
		iii 地域社会の健康に寄与できる看護者の輩出を目指し、聖マリア病院との連携による就職支援を行う。		
		iv 学修・研究意欲の高い学生に対し、大学院授業聴講機会の提供など、学びの意識を向上させる場を設け、進学も視野に入れたキャリア形成を可能とする。		
4	真に支援を必要とする学生への適切な支援	i 学生の正しい自己理解と人間的成長を促すための支援		学生委員会 学生支援センター 健康管理センター
		ii 障害学生支援体制の構築を図るとともに、教職員の更なる理解を促すための取り組みを行う。		
		iii 意欲と能力がありながら、経済的理由により修学を断念することがないよう、給付型奨学金等の正確な情報提供と適切な運用を行う。		
5	学生生活・学修環境の整備・充実	i 学生生活満足度調査の結果等を踏まえ、学生が充実した学生生活を送り、また主体的学修を可能とする学内環境を整備する。	学生満足度調査	学生委員会 教育の質向上委員会

入試改革と戦略的學生募集・広報活動の推進

中期目標・計画（令和2年度～令和6年度）		中期行動計画（令和2年度～令和6年度）		評価指標（数値目標）	責任委員会等
1	戦略的學生募集活動の立案による安定的受験者数の確保	i	重点的ターゲットとなる地域、学力層への戦略的アプローチ（高校訪問、出前講座、SNS等）の実施と取組実績評価に基づく改善	受験者数 （学部330名、専攻科20名、大学院12名）	學生募集・広報戦略委員会 入試委員会
		ii	受験につながる魅力あるオープンキャンパス・大学見学会の企画・実施と取組実績評価に基づく改善	オープンキャンパス・大学見学参加者数 （参加學生350名以上）	
		iii	奨学金制度、Web出願等、制度面からの受験者確保方策の検討と実施。		入試委員会 學生募集・広報戦略委員会
		iv	大学院においては、内部進學者を増やすための取組強化。	大学院内部進學者数（3名以上）	入試委員会 學生募集・広報戦略委員会 學生委員会
2	本学アドミッション・ポリシーに合致した學生の安定確保を目指した入試制度の改革	i	入試区分別の入試倍率・入学後成績等の分析を通じ、入試区分や選抜方法の妥当性、並びにアドミッション・ポリシーとの整合性の検証。	受験者数 （学部330名、専攻科20名、大学院12名） 入試区分別入学後状況 （成績・学籍異動等）	入試委員会 IR・SD推進室
		ii	検証結果に基づく、新たな入試区分創設や区分別定員・選抜方法、並びにアドミッション・ポリシー自体の見直し等の実施。	受験者数 （学部330名、専攻科20名、大学院12名） 入試区分別入学後状況 （成績・学籍異動等）	入試委員会 IR・SD推進室

社会連携(地域貢献、国際交流)

中期目標・計画(令和2年度～令和6年度)		中期行動計画(令和2年度～令和6年度)		評価指標(数値目標)	責任委員会等
1	学長方針下、本学の主要事業の一環である”地域ファースト”、”国際交流”の大学内への浸透と全学的関わりを前提とした事業化を図る	i	総括的、機動的に企画、執行するための組織化	委員会再編(R2～)、年間活動実績	地域・国際連携センター (+関係各委員会)
		ii	教職員及び学生の自主的、積極的な参画を促す取組み	人事考課項目化、学生組織体活動実績	
		iii	教職員個々人における活動内容の可視化、共有化	一覧表の取り纏め【継続案件】	
2	社会貢献、国際交流事業に関する、各連携・提携先との関係性の堅持、強化	i	新規事業の展開と継続事業の発展性(事業の整理・統合)	事業実績と関係者からの評価	
		ii	地域における活動拠点(旧「まちなか保健室」の代替施設)の開設	施設の確保、年間活動実績	
		iii	聖マリア病院、聖マリアヘルスケアセンターとの連携(cf.:3-iii)		
3	大学の資源(人材、知財、施設・設備)を広く還元し、多様な社会ニーズへの柔軟な対応に資する	i	社会に対する多様な学修プログラム、生涯学習講座等の開発、提供	新人看護師研修、履修証明、公開講座	
		ii	学内施設、図書館等の積極的開放による地域住民の活動支援	各種団体・機関との共催等	
		iii	ナースベースドクリニック活動の展開(cf.:2-iii)		
4	情報発信力の強化による認知度、関心度の向上	i	Web媒体を中心とした多角的視点からの情報発信	発信者・数・内容の多層化、アクセス数	
		ii	地域社会における新たな関心層(小中学校、自治会等)へのアプローチ	新規企画の立案・執行	
5	久留米市内高等教育機関との連携により、地域における総合的な知の拠点づくりを進め、「知」を地域社会に還元するとともに、自治体、産業界と協働し、地域の教育、文化及び産業の発展に貢献する。	i	コンソーシアム久留米及び久留米広域高等教育活性化産学官連携プラットフォームへの参画による、教育連携、地域連携、次代の地域を担う人材育成、連携基盤の整備、運営・人材の強化を図る取組を実施		

経営基盤・組織の強化

中期目標・計画（令和2年度～令和6年度）		中期行動計画（令和2年度～令和6年度）	評価指標（数値目標）	責任委員会等
1	建学の精神の具現化に係る原点回帰と理念継承	i	カトリック大学や看護大学にふさわしい、良識ある大学人・組織人としての意識醸成。	ミッション会議 カトリックセンター
		ii	看護教育50周年(2023年度)に向けた関連事業の推進。	
2	経営環境の変化に対応するガバナンス機能の強化	i	外部評価や監事監査を活用した内外両面のガバナンスチェックなどによって組織運営機能の適正化を図る。	外部評価委員会
		ii	学長補佐体制の強化、教授会の役割の明確化などによる学長のリーダーシップの確立。	政策企画会議 教学マネジメント会議 教授会
		iii	機動的能動的な学内組織への改革。	政策企画会議 教学マネジメント会議 IR・SD推進室
3	大学運営の根幹となる健全な財政基盤の確立	i	収支構造の再構築による安定的な内部留保を継続する。	
		ii	予算編成の精度化と戦略的な予算配分で施策的執行。	
		iii	主要財務比率などの指標を基にした客観的分析による財務計画の策定と実行。	定量的経営判断指標、主要財務比率
4	包括的キャンパス整備による魅力ある大学づくり	i	学生の教育・学修環境向上を主眼とした施設設備の拡充と教育効果を高める効率的な機器更新、整備。	
		ii	学生及び教職員の安全、安心を基本とした学内環境の点検整備の計画的実施。	
		iii	将来構想とリンクした隣地取得や新棟整備方策の検討。	
5	聖マリア病院を中心としたグループ法人間連携の堅持	i	グループ法人間における協働体制の深化、推進を目指す。	
		ii	系属校との関係強化に係る課題抽出と実務的検証を行う。	法人合併協議会